

序文

本報告書は、2004年7月29日 - 30日に京都大学原子炉実験所において開催された「広島・長崎原爆放射線量新評価システムDS02に関する専門研究会」のプロシーディングスである。従来、広島・長崎原爆による放射線被曝量の評価には、DS86 (Dose System 1986) が用いられてきたが、DS86方式に基づいて計算された中性子放射化量と測定データとが一致しないなどの問題があったため、1990年代前半から日米双方でその見直し作業が行われてきた。2000年末より日米合同ワーキンググループ (日本側代表：葉佐井、米国側代表：Young) として問題の解決にあたることになり、双方WGの積極的な作業の結果、新たな線量評価システムDS02が策定されるに至った。DS02は、2003年3月に東京で開催された日米合同原爆放射線量評価検討会 (日本側厚生労働省、米国側DOE推薦の専門家会議) において、放射線影響研究所で実施されている広島・長崎被爆者調査のための新たな原爆放射線量推定システムとして承認された。

本専門研究会は、日本側WGメンバーを中心に、DS02のまとめの会として、これまで行ってきた日本側作業と今後に残された課題について総括的な議論をするために企画したものであった。さらに、DS02では扱われていない、黒い雨や誘導放射能に関する問題も議論に含めた。研究会には40名余りの参加があり、活発な討議が行われた。

専門研究会の世話人は、葉佐井、星 (所外)、柴田、今中 (所内) が担当した。DS02の内容を紹介する資料として、専門家はもちろん一般の人々にも本報告書が役立てば編集にあたった者として幸いである。研究会の報告者、座長、参加者をはじめ、これまで日本側WGの活動に支援を頂いた方々に改めて謝意を表したい。

2005年2月

葉佐井博巳	広島国際学院大学
星 正治	広島大学
柴田 誠一	京都大学
今中 哲二	京都大学